第２回電子カルテ部会での主な意見

参考資料３

区分	主な意見
患者・都民	**（メリットの整理）** ○一般の方には電カルそのものの有用性が伝わりにくいため、**導入時は医療ネットワーク、会計・予約システム、PHR等との連携による患者の利便性を中心に説明**すべき。
	（メリットの普及啓発） ○電カル導入による患者メリットの発信も引き続きやっていく必要がある。 ○患者への電カル導入によるメリットは当たり前すぎて感じてくれない可能性がある。**画像や映像でどのくらい便利になるのか見せるのも一つの手。** ○**患者メリットの周知**は回覧板など、**オフライン的**にやってみたらどうか。
医療機関	**（メリットの整理）** ○電カル導入は、**その先にある医療DXの効果（業務効率化、データ活用、診療の質向上など）まで示さなければ、現在の厳しい経営下では負担増**となり状況を悪化させかねない。
	（メリットの普及啓発） ○電カル導入によって残業代など、**どのくらいコストが減ったのか**、また**採用にどのくらい影響があったのか**、といった**事例を中心**に伝えるといい。 ○**クラウド化は災害・緊急時の事業継続性を高める**ため、その点も都が明確に説明すべき。 ○電カル導入メリットについて、**医療職が日常的にどういうメリットがあるのか具体的にイメージ**できるようなものがあるとよい。

第２回電子カルテ部会での主な意見

区分	主な意見
医療機関	（**伴走型のサポート**） ○医療機関には、**電カルの導入は第１ステップであって、その次にAIの活用があること等、導入した先に色々なステップがあるということを切り分けて、説明**するといい。 ○**各補助事業を組み合わせて使いやすくする**とより効果が上がる。 ○導入時の支援だけでなく、保守費用まで見据えた支援設計が必要。 ○電カル導入・未導入を問わず、人材を確保できない病院も少なくないため、都が先導し、丁寧に伴走支援する体制が必要。 ○**4月に開業するところは、前年度から準備をしているが、当該年度の都の補助金申請は締め切っており活用できない。第１四半期に補助金を活用したい医療機関を補助対象に組み込めるよう検討してほしい。** ○電カル導入によって外来・入院患者を絞らないといけない時期があり、その期間の収益はどうしても落ちてしまう。赤字補填がないと導入した後に困る医療機関は増えてくるので検討してほしい。 ○初期導入費用を電カル本体だけでなく、付随して導入・接続する必要があるものも補助することが大事。 ○電カルを入れたくても入れられない病院が非常に多くあるということを知っておいていただきたい。**赤字であったり、国の動向を見極めてから入れたいと考えている病院は多い**と思う。 ○セミナーや出張講習会・電子カルテ操作研修の対象は医師や看護師だけでなく、**スタッフも参加できた方が良い。**苦手意識を持っている人もいるし、医師とスタッフで同じ情報を共有できた方がいい。 （**セキュリティ対策**） ○電カル導入と同時にセキュリティ対策も併せて考えて必要がある。啓蒙活動は必須で、**セキュリティ対策のための色々な仕組みを補助事業の中に入れて、できる限りセキュリティが確保できるようにしてはどうか。** ○**セキュリティ対策は、今後もっと慎重にやっていかないといけない。都の補助等、医療機関への周知が必要。**

第２回電子カルテ部会での主な意見

区分	主な意見
情報連携	**（情報連携・基盤整備）** ○**全国医療情報プラットフォームと都の医療連携ネットワークをどのように対応するか悩まれている病院が多い。**例えば東京総合医療ネットワークに参加すれば、そのネットワークごと全国医療情報プラットフォームにFHIRで情報提供できる仕組みがあれば、参加しやすくなる。 ○PHRとマイナンバーカードで紐づけ、患者と相互に情報交換ができるようなものになっていくのが電カルの将来像としてはいいのではないか。 ○都がAPI連携を使って、LLM／生成AIを導入し、医師が患者と向き合って診察できるように音声を文字起こしして電カルへ自動記録するサービスを電カルとは別システムとして構築したほうが、将来的なコスト面でも有利。 ○精神科は業務の流れが他科と全く違うし、オーダリングが複雑で、マーケットが大きくないから、ぴったり合う電カルがない。 ○医療DXを進めるには、APIを公開すればよく、国が規格を統一しなくても、情報共有ができるようになる。何年か後にAPIを公開しないと補助金を出さないとする等、検討してほしい。 ○診療所にかかっている患者は紹介先の病院との連携が気になると思う。診療所の方たちに電カルを入れると連携先の医療機関が使っているネットワークの中にスムーズに入れるというようなことも、出張講習会の中で情報提供してほしい。
情報発信・先進事例の横展開	○医療DXが進んでいるところをショールームのようにして、**視察に行けるようにする**と実際に見ることができ実感が湧く。 ○メリットの発信については、**絵や漫画、動画など、色々な手法がある。プロのデザイナーが考えるとどうなるのか検討するのも必要。** ○電カルを３パターンくらいのパッケージに分けて、各パターンごとに費用や機能等を示して医療機関へ発信するのはどうか。 ○**広報については、HPでもいいが、色々な媒体を活用していくべき。** ○**電カルを使うことによるメリットをロールモデルを使って示せると良い。** ○周知については著名人を使ってやるのも一つの手ではないか。 ○**HPを見ることへの誘導が必要**で掲載したら見てくれるという前提は考えない方がいい。